

曰、胡菌者世謂之木槿、或謂之日及、郭璞曰、似李樹、棗朝生夕殞、可食、或呼曰日及、ト云云、スモ、ナツメニニタリト云ヘルニテシリヌ、木ヲスガタナリトハ、ヨノツ子ノアサガホノツルニハ、非ズトキコユ、此邊ノムクゲハスモ、ニニタリトモオホエズ、所ニシタガフニヤ、ヒサゴノ花ヲ夕顔ト云フニ對シテ、牽牛子ノツルヲバ朝顔ト云ナラハセリ、今ハ又ムクゲニ通用シテ、槿花トモ云フナルベシ、

〔松の落葉〕あさがほ

あさがほとは、あしたにさくかほ花をなべていへるにて、ひとつの草の名にはあらず、そのよしつぎ、たときあかすべしまづ新撰字鏡に桔梗加良久波又云阿佐加保とあるも、その證なり、からくはといふが正しき名にて、あしたにさくうつくしき花なれば、あさがほともいへるなり、今の人牽牛子のみあさがほとおもへるはたがへり、○中此草は野山におのづから生ることなきは、から國よりたねのわたり來て、ひろごれるにぞあらん、其わたり來つるは、今の京のはじめのころなるべし、さて朝がほといふころを、くはしくいはんとす、いにしへかほ花といひしは、かほのすぐれてうつくしきはなの事なり、かほといふは、今の世にかほかたちといふ意なり、かほかたちのすぐれたる人を、中ごろには、かたち人といひき、それと同じころなり、されば何にまれ、朝さきてかほのすぐれたる花をめ、あさがほといひはやしたるにて、花の名にはあらず、○中牽牛子のわたり來ては、これもあしたにうつくしき花さけばしかいひ、槿花もさやうなれば、あさがほとはいへるなり、○下

牽牛子種類

〔大和本草藥〕牽牛子 朝間花容美シク、見覲則萎故朝顔ト號ク、盆ニ植テ室下ニヲケバ不_レ早萎花ニ淡青深青紫色白色アリ、本草曰、有毒雄烈泄入元氣毒藥ナリ勿_レ妄用、黑牽牛子ハ花ノ深青ナルヲ可用、油ヲトリテ燈ニ點ス可也、○中小牽牛花アリ、蔓ノ本ニ葉ヨリ花早ク開ク、其色紺白碧紫